

九州朝陽会報

平成二五年三月一日発行第二〇号

教え子の

背に乗せられて

九州朝陽会名誉会員

佐藤 喜一（新1回）

四年ぶりに博多へ飛び、九州朝陽会総会に出席させていただいた。（12・11・11）四年前は少々体調が芳しくなく、いささかご迷惑をおかけしたので、そのお詫びをかねての参加だった。

一人旅を企画したが、障害者（血液透析患者）を一人で九州に行かせるわけにはいかないと、娘が付き添ってくれた。「老いては子に」とか「旅は道連れ」とか言われるから、ま、いいでしょうと羽田発JAL315便の客となった。

ヒコキに乗るのも四年ぶり。前回参加させていただいた帰途、福岡空港から飛び立って以来だった。少々構えていたが、B767のシートに身を沈めて、「イノチ預けますヨ」と目を閉じれば、

二時間足らずで博多の人になれた。気分爽快。こんな病人でも乗れたということが嬉しかった。

※

食事も酒も美味しい会だった。小泉さんのご配慮で、私のテーブルにはモト生徒たちが集まった。旧い話の花が咲く。19回の坂本君には四年前にも逢ったが、なぜか一段と遅しくなっていた。

私が「明日は『つばめ』に乗って熊本へ行く。熊本の空港から帰京する」と言うと、熊本に居住する坂本君は、じゃ市内の漱石ゆかりの地を案内して空港まで送ってくれる、という。ありがたく受けた。

宴の終りに近く、歌になった。六中校歌の歌えるのは一期先輩の小代さんと私だけ。そして皆で「健児の歌」、「新宿高校校歌」とつづけて、盛り上がる。あつという間に、おひらきとなった……。



と、坂本君が「先生をおぶってもいい」と言う。「？」と顔を向

けると、「一度背負ってみたいと思ってたんですよ」と笑う。胴上げではなく、坂本君の背中に乗せられたキイチ。少々いい気分になった。

※

翌十二日、9時22分熊本行『つばめ』337列車の乗客となる。九州新幹線はもちろんのこと、『つばめ』にも是非一度と、こだわっていたので、帰りのフライトは熊本からにしたのだった。

前夜、博多駅みどりの窓口レディが、「びっくりつばめ2枚きっぷ」なる格安チケットをすすめてくれたので、博多駅屋上にある鉄道神社のご利益があった！と悦んでいた。

11番ホームから『つばめ』は静かに滑り出し、ゆったりと走った。「やっと『つばめ』に乗れた!!」と微笑んだ。されどそれも束の間、新鳥栖で停車したまま、動かなくなってしまったのだ。

どうする？在来線で行くかと鳥栖へ出たら、10時28分発八代行各駅停車のワンマン列車がいた。12時09分に熊本に着くと言った。「先生、大丈夫だ！、13時のヒコキに間に合いますよ」と坂本君は自信たっぷり。

途中「快速」にも乗り継いだが、

結局はこの二輛編成の電車が、定刻に着いた。

そこからが坂本君の舞台。12時15分に駅前を出ると、一路空港へ。三十分後にはピタリと着いた。12時55分には機内へ。かくして、13時発JAL1810便は定刻に飛び立った。

「負うた子に浅瀬を教えられ」ということわざがある。だが今回の帰途は、私が背負われて助けられた旅ということになった。『つばめ』は一駅しか翔ばなかったけれど、教え子の背の暖かみがしみじみと伝わってくる旅、だった。

（2012・11・28 寄稿）

新宿の青春

あれやこれや

《アフター13の映画館》

坂本 辰哉（新19回）

私が在校してましたのは、東京オリンピック開催の前後でした。ご存知の通り東京の街並みが、その姿を大きく変化しつつある最中です。当時、関東大震災に耐えた校舎で高校生活を過ごした一人として、経験したことなどを拙い文章で綴りたいと思います。

その頃の新宿は、最先端の物事

に触れて、日々大人になれる街でしたから、登下校が楽しく、パンパンに膨らんだ重い鞆も全く苦になりません。白線二本の学帽を被ったままで徘徊したものです。池袋は場末、渋谷はガランとした乗り継ぎ駅、浅草は寂れたところで三業地への入口でしかなく、銀座は敷居が高い。新宿こそが若人の呼吸すべき空間でした。

そしてこの街は新宿高校生に優しかった。人々が、我々を特別な存在として見てくれている事実に気付かされたのは、入学間もない頃のオリエンテーション期間中でした。午後から暇なので伊勢丹へ行き、美容部員のきれいなお姉さんたちの前を、勝手にドキドキしながら通り過ぎて屋上へ出ました。トイレに入ろうとすると、中から同じ白線帽の二人が出てきて思わず目が合いました。M高生です。すれ違おうとすると声を掛けられました。「よう、金貸してくんねえか」・・・これってカツ挙げじゃないの。それならば、私は組み易しと見てのことで、つまり舐められているのだ。ここまで思い至った私は無性に腹が立ったのです。瞬時に小柄な相手を識別して、顔面への一撃が炸裂しました。振り返ってもう一人の

相手との取っ組み合いが始まると直ぐに、遊具係のお兄さんたちに引き離されました。荒い吐息で立っていると、警官がきて交番へ連行です。補導されたから退学かもしれない。入学したてだと言うのに。そう思いをめぐらしていると、警官が開口一番、「君は新宿か。帰って宜しい」彼の気の変らぬうちに、軽く会釈して外へ出ました。新宿高校生だから悪い事をするはずがない、馬鹿な事をするわけない、もしもそうなら正當な理由がある筈である。この絶対的な信用は、開学以来の諸先輩方の築かれたもので、決して傷つけてはならない。斯様に思い至ってからは背筋を伸ばし、真っ直ぐ正面を見据えて歩くようになりました。生徒を一人前とみなし信頼する姿勢は教職員におかれても同様でした。

あるとき、英文法の講師（「君たちはボキャブラリーがブアだからして」が口癖）がしきりに映画鑑賞を薦めます。感性のみずみずしい今だからこそ見ておくべきだとの映画は、成人指定の「春のめざめ」でした。その頃、「チャタレイ夫人の恋人」の猥褻とされた日本語訳されていないペーじを、英和片手に読んでいまし

た私たちにとって甘い誘いですが、白線にもとる行為ではないかしらん。少々心配になって、倫理社会担当の布川先生を訪ねました。先生は映倫の審査委員です。成人指定は何ゆえかと伺いましたらば、新宿校生はその範疇に含まれずとのお答えです。大いに気を強くして皆で出かけました。

膨らみはじめたばかりの乳房のクレオパトラ・ロータの美しさに感動し、清浄無垢の時空から飛び立つ姉との別離に沈む幼い弟の哀愁に、誰しもが通るであろう何かを予感し、今まさにその只中にある自分自身に気づかされたものでした。

成人指定映画などというのは、いかがわしさに惑わされて、性への興味が方向性を見失う恐れのある連中を遠ざける為の指定であるからして、より高次の知見を有し、判断力のある我々を束縛するものではない。そう解釈した私たちは、次にベルイマンの「沈黙」を観に行きました。四人並んで座り、各自膝の上に例の鞆を抱いて鑑賞していたのですが、激しいベットシーンが始まりますと、どこからともなく（隣から）栗の花の香りが漂ってきます。以前、近所のおばちゃんが言っていた「年

頃の娘は花時の栗林には入ってはいけない。気がふれる」とはこの事なのだと了解したものです。当時の新宿には、十四軒ばかりの映画館がありました。他人より一本でも数多く観ることにだけ意義を見出した私は、週に三度は寄り道しておりました。よく行っ



懐かしい名画座の入口

たのは日活名画座や武蔵野館、そして昭和館などです。休日の朝から日活名画座へ出かけた時、螺旋階段を上がっていきますと行列です。開館待ちの列を見上げると、反時計回りの数人先に津川雅彦氏が立っていました。特徴的な鉤鼻と長いまつ毛に縁取られた大きな目、透き通るような白い肌に青々とした剃りあど。匂うがごとき色男です。現在の容姿からは想像できませんでしょうが、私が今まで出会ったなかでピカイチの美しい男性です。鳥肌が立ったことを憶えています。男が男にぞっとするといえ、名画座は同性愛

者の溜まり場でもありました。

空席がたくさんあるのに、後ろの壁際で立ち見をしている人が必ずいます。なんとなく気づいていました。ある日のこと、満席の為立ち見をしていますと、下腹部を触られました。混んでいるからじっとしていますと、再び触られました。今度はもっと大胆です。異様なので身を固くして左右を見回すと、其処此処でオーラルの最中です。このまま身を任せたらどんな気持ちかしらん、との思いを振り切って外へ出ました。以来階段を上がっていません。

皆さんはエスケープされましたか。隣の四谷二中との境に暖房用の石炭置場がありまして、そこを上ると容易く甲州街道へ出られます。その日も同様にして乗り越えて新宿東映へ行きました。梅宮辰夫の番長シリーズで、面白くないのでロビーにでたら、公衆電話の前で泣いている人がいました。十円玉の山から次々に入金しながらの涙声、通話内容は初出演の作品への観客反応についてでした。自分のシーンで、ざわめきと拍手が起こったと報告しています。新宿東映は本社でもあるので、封切時は出演者がよく覗いていました。電話前の泣き虫は鹿兒

島出身の谷隼人でした。

週末はオールナイトが楽しみです。よく行きましたのは新宿ピカデリーでした。洋画の封切館でしたし、無料入場可能だったからです。マージャンして少しアルコールを入れてから出かけます。階段に沿った壁がガラス張りなため、階下のほうから、もぎり嬢の有無が確認できます。大抵、午前零時を過ぎるといなくなりますので堂々入場です。冬暖かく、夏は涼しい。映画を楽しむもよし、朝まで高斟をかくもよしです。時には前の席でカップルが寄り添い、スクリーンが見づらいこともあります。二人の間に臭い足を乗せると、文句を言って振り返りつつも多勢に無勢を理解してそそくさと席を移動してくれます。天下泰平でした。ビバ！新宿。

(2012・11・29 寄稿)

日本がエネルギー

大国になる夢

岡本 稔(新14回)

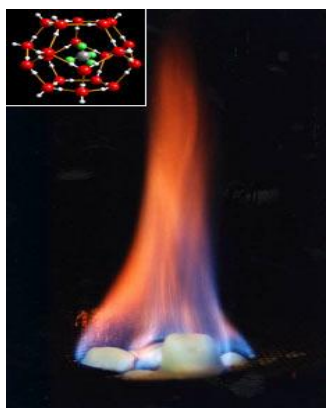
福島第一原発の事故を契機に、脱原子力発電に関して国論を二分する議論が盛んである。現在稼働中は関西電力の大飯原発1基

であるが、国をあげての節電効果もあり、現状では電力不足の影響は軽微である。さらに再生可能エネルギーや各種の省エネ技術の開発が進めば、原発ゼロは発電能力的には可能であろう。問題は発電コストであり、電力料金アップに対して産業界を中心に日本の製造業の死活問題と反発している。直面するこの困難をどのように解決するのか、国民全体が真剣に考えるべき課題である。

しかし、私は最近話題になっている新しいエネルギー資源に大変期待している。米国ではシェール中に含有される天然ガスやオイルの採掘に成功し、一躍エネルギー大国になりました。天然ガスの価格は十分の一になり、シェール革命と言われています。残念ながら、日本の領土内ではほとんどシェールガス等の埋蔵はありません。

しかし、日本ではもっと夢のある資源が発見されています。第一は、いわゆる「燃える水」といわれるメタンハイドレイドです。メタンハイドレイドは日本近海、海底に大量の埋蔵が確認されており、その埋蔵量は日本の天然ガス使用量の100年分以上とも言われています。課題は掘削技術

です。現状では、コスト的に採算レベルにはまだまだ厳しい状況にあります。しかし、漸く国策として世界初の試掘テストが愛知県沖で始まりました。日本の産学官が協力して英知を結集すれば、必ず近い将来産業化が可能となるでしょう。



燃えるメタンハイドレイド

第二はバイオマスです。既に、米国などではトウモロコシや大豆などの穀物がエタノールの生産に利用されています。しかし、現在地球人口が60億人を超え、さらに増加が予測され、食糧不足に苦しんでいる国が多数あるなかで、穀類のエネルギー化には非常に問題が大きいと思います。

そこで期待されるのが「藻」の活用です。既に、基本的な製造技術の開発はできております。藻類からは石油と同じ炭化水素が製造できます。単位面積当たりの油脂生産効率は、トウモロコシや大豆の実に百倍以上の効率的な藻

が発見されています。産業競争力懇談会は「日本は藻類燃料に総力を結集して取り組むべきだ」との報告書をまとめました。日本は周囲を海に囲われ、藻類培養には世界一恵まれており、無尽蔵に培養が可能です。

さらに、もつと日本に適した資源が近未来研究所で開発されていることを知りました。それは「芋」です。芋の澱粉は燃料に適しており、かつ食糧には不適合で、成長の早い芋ほど適しています。近未来研究所の鈴木高広教授の試算では、現在の休耕地40万haを利用すれば、18億トン／年の澱粉が生産でき、国内の全原子力と火力発電の発電量を賄える。さらに遊休地100万haを活用すれば、48億トン／年の澱粉が生産でき、実に国内の全発電量を賄える。資源小国日本が、メタンハイドレイドと藻類と芋の活用で、近い将来にエネルギーの自給、さらに輸出も可能な夢の世界が実現すると期待している。

(2012・12・10 寄稿)

二十四年度総会開催記

今年度総会は去る十一月十一日に例年と同じ福岡天神の「福新楼」で

開催しました。会員の参加は地域外会員の佐藤喜一（新1）さん、小山春美（新25）さんを含めて十九名でした。参加者の増加を期待して、例年の十月を一ヶ月づらせて十一月としたのですが、顕著な効果はく残念でした。

しかし、東京から朝陽事務局の吉村悟幹事長、小出富江事務局員と、九州旅行を同行した彼らの同期生（新7）三橋宏さん、石橋絹子さん、そして偶々博多に所用で来られていた斎藤成（新25）さん、さらに佐藤先生に同行されたお嬢さんの佐藤真紀さんを加えた総勢二十五名の賑やかな会合となりました。急遽、東京での所用で欠席を余儀なくされた石井会長も、上京前のひと時、顔を出され、一部の参加者との交流もありました。定刻の十六時に岡本幹事の司会で総会が始まり、幹事長から支部年次運営経過、年度会計、会報の発行についての今後、そして樋口大成さん（旧17）宮澤信雄さん（新6）の計報などにより現状在籍会員が60名であること、一昨年天神三越で展覧会が開催され、亡くなった樋口さんから12号会報で紹介された同窓の松尾敏男画伯（旧17）が文化勲章を受



章されたことなどの報告がありました。

引き続き、例年通り朝陽吉村幹事長から映写をまじえて、母校の現況、朝陽同窓会の運営、母校90周年祝賀会、朝陽祭のことなどの説明がありました。次に、4年ぶりの参加の佐藤先生から、ご自身の事を含めて「朝陽」という言葉の由来など、母校の今昔にまつわる大先輩らしいお話がありました。最後に九州電力OBとして在職中原子力発電事業に携わってこられた小代伸博さん（旧21）から、その視点で原発問題についての所感が述べられました。

一時間ほどの総会が終わり、例年通り集合写真の撮影、最年長の小代伸博さんの発声で乾杯後、四卓に分かれて会食歓談となりました。それぞれのテーブルで世代を越えて談論風発の久しぶりの再会にあためて同窓の絆を深め、楽しい時間をすごしました。

予定の時間も瞬く間に過ぎ、定番の校歌、健児の歌を全員で歌い散会となりました。

幹事長 記

事務局からのお知らせ

・会員動静

退会（平成二十四年十二月）
蜷木陽子さん（新8）東京へ転居
二末日現在会員総数五十九名となりました。

・新年度会費納入のお願い

新年度会費は一月末現在六名の方が未納です。未納の方には振込取扱票を同封していますので至急納付をお願いします。

・訃報

昨年十一月十三日木村勇三先生が亡くなられました。多くの会員がお世話になっていると思われるので、九州朝陽会として告別式に弔電をお送りしました。

・会報寄稿のお願い

次号会報へのご寄稿お待ちしております。締め切りは五月二〇日、一〇〇〇字前後でお願いします。内容は自由です。

【発行元】

九州朝陽会事務局
福岡市若木台1丁目
20-7
Tel/Fax:0940-43-5545
Mail:kjun612@nifty.com

【編集者】

九州朝陽会 幹事長
小泉純理
(新7回)